

JLTA Newsletter  
日本言語テスト学会  
The Japan Language Testing Association

JLTA Newsletter No. 9 発行代表者：大友 賢二 2001年（平成13年）5月21日発行

発行所：日本言語テスト学会（JLTA）事務局

〒389-0813 長野県埴科郡戸倉町芝原 758 TEL 026-275-1964 FAX 026-275-1970

e-mail: youichi@avis.ne.jp URL: <http://www.avis.ne.jp/~youichi/JLTA.html>



\* \* \* \* \*

「日本言語テスト学会」への改名に寄せて

会長 大友賢二

（常磐大学教授・筑波大学名誉教授）

2001年4月1日をもって、これまでの「外国語教育評価学会」が「日本言語テスト学会」と生まれ変わりました。英語名は、従来どおり、The Japan Language Testing Association: 略称 JLTA です。JLTA は 1996 年 12 月に誕生しているので、それからすでに 4 年 3 ヶ月の月日が流れています。

「外国語教育評価学会」という名称で出発したのは、いきなり言語テストというと、興味があっても、それが私の専門です、といって会員になる方はあまりおられないのではないか、という心配があったからです。また「外国語教育」を「評価する」学会というような明確でない印象を与えるはしないかという心配もありました。

しかし、この 2 つの心配はさほど大きな問題ではなかったようです。JLTA は 4 年 3 ヶ月の間、会員の献身的な努力によって、すくすくと成長してまいりました。1999 年の The 21<sup>st</sup> Language Testing Research Colloquium: 略称 LTRC 99 や 2000 年の ETS (Educational Testing Service) と共に JLTA Language Testing Workshop など、これまでのわが国の歴史では見られなかった言語テストの国際的研究活動を展開するにいたりました。

この時点で、本来の姿を示す「日本言語テスト学会」と改名することにいたしました。日本における言語テスト研究の中心となる学会「日本言語テスト学会」の名にふさわしいさらなる発展ができるよう、会員の皆様、および関係する多くの方々の、ますますのご指導とご協力を願いするものです。

学会名の変更と併せて、会則の改訂が 2000 年度の総会で決定されました。以下、新しい会則を掲載いたします。

## 日本言語テスト学会 会則

第1条 本会は、日本言語テスト学会 (The Japan Language Testing Association: 略称 JLTA) と称する。

第2条 本会は、外国语能力の測定と評価に関する理論の研究を深め、その応用・実践を推進して、国際社会の外国语教育発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究例会、全国研究大会、セミナー等の開催
- (2) 国際会議、国際ワークショップ等の開催
- (3) Newsletter, 研究紀要等の発行
- (4) その他、本会の目的達成のために必要な事業

第4条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同した一般会員、賛助会員、ならびに名誉会員から成る。

第5条 入会金は 1,000 円、年会費は一般会員(個人) 10,000 円、賛助会員(企業、各種団体等) は一口 50,000 円とする。名誉会員の入会金・年会費は不要とする。

第6条 本会を運営するため次の役員会と委員会を設置する。役員及び委員の選出・委嘱の方法とその任務は次のとおりとする。また、その任期は 2 年とし、再任は妨げない。

- (1) 会長 1 名：役員会の推薦で選出され、会務を総括する
- (2) 副会長 2 名：役員会の推薦で選出され、会長を補佐する
- (3) 事務局長 1 名：会長の委嘱により、庶務・会計等を担当する
- (4) 理事 若干名：会長の委嘱により、本会運営の基本方針を審議する

委員は、会長の委嘱により、該当する活動の実務を担当する

編集委員 若干名：研究紀要の編集 (査読を含む)

広報委員 若干名：Newsletter の編集・PR・(HP)

研究会運営委員 若干名：研究例会・全国研究大会の企画・運営

会計監査委員 若干名：本会の会計監査

第7条 本会は年 1 回定期総会を開くものとする。

第8条 役員の改選は総会の承認を受けるものとする。

第9条 本会の経費は、会員の会費、寄付金、その他の収入をもってて、会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わるものとする。

第10条 本会則の改正は、総会による承認を受けるものとする。

付則 本会則は 1998 年 8 月 1 日より施行する。

2001 年 4 月 1 日改訂・施行。

## Constitution of the Japan Language Testing Association

Article 1 The name of the association shall be The Japan Language Testing Association (abbreviated as JLTA).

Article 2 The purpose of the association is to improve foreign language education by advancing research in the measurement and evaluation of foreign language proficiency and by facilitating the application of test theory and improving testing practice.

Article 3 This association will conduct the following activities:

- 1) Hold study meetings, an annual national conference and seminars
- 2) Host international conferences and workshops
- 3) Publish a newsletter and a research journal
- 4) Other activities in keeping with the purpose of the association.

Article 4 This association shall have the following types of members:

Ordinary members

Institutional members (companies, other institutions)

Honorary members.

Article 5 Entrance fee 1,000 yen, Yearly membership 10,000 yen, Institutional membership 50,000 yen per unit per year. Honorary members are not charged a fee.

Article 6 The management of the association will be in the hands of the executive board and the committees made up of the following officers which will be selected/appointed as indicated. Each shall serve 2 years and re-election/re-appointment is permitted.

(The executive board)

- 1) A president, elected at the executive board meeting of the association shall direct the association.
- 2) Two vice-presidents, elected at the executive board meeting shall assist the president.
- 3) A secretary general, appointed by the president shall handle the secretarial and business aspects of the association.
- 4) Directors, appointed by the president shall establish the basic policy of the association.

(The committees) The following committees, appointed by the president shall work for each activities.

Editorial committee shall edit the JLTA Journal.

Publicity committee shall issue the JLTA Newsletter, and shall do all the publicity activities needed, including the maintenance of the JLTA web pages.

Research meeting committee shall organize the JLTA research meeting and the JLTA annual conference.

Auditor committee shall audit the financial accounts of the association.

Article 7 The association shall hold an annual meeting.

Article 8 Those re-elected or re-appointed to the executive committee must be approved by the Annual Meeting.

Article 9 The expenses of the association shall be paid out of membership fees, donations and other income. The fiscal year of the association shall be from April 1 to March 31.

Article 10 Any revision of this constitution must be approved by the annual meeting.

These regulations come into force from August 1, 1998.

The revised version comes into force from April 1, 2001.

## 2001 年度役員

会長	大友 貢二 (常磐大学・筑波大学名誉教授)
副会長	Randy Thrasher (国際基督教大学) 中村 優治 (東京経済大学)
事務局長	中村 洋一 (常磐大学)
理事	大友 貢二 (常磐大学・筑波大学名誉教授) Randy Thrasher (国際基督教大学) 中村 優治 (東京経済大学) 中村 洋一 (常磐大学) J. K. Hubbell (法政大学) 木下 正義 (福岡国際大学) 清川 英男 (和洋女子大学) 浪田 克之介 (北海道情報大学) 大坪 一夫 (履澤大学) Steven Ross (関西学院大学) 根岸 雅史 (東京外国语大学)

編集委員	Randy Thrasher (国際基督教大学) 浪田 克之介 (北海道情報大学) 清川 英男 (和洋女子大学) J. K. Hubbell (法政大学) Steven Ross (関西学院大学) 根岸 雅史 (東京外国语大学)
広報委員	中村 洋一 (常磐大学) 木下 正義 (福岡国際大学) 渡部 良典 (秋田大学) 山崎 朝子 (武蔵工業大学) 木村 真治 (関西学院大学)
研究会運営委員	中村 優治 (東京経済大学) 島谷 浩 (熊本大学) 桜井 敏子 (神戸松蔭女子学院大学) 智原 哲朗 (大阪女学院短期大学) Elizabeth Heiser (関西外国语大学) 法月 健 (静岡産業大学) 伊藤 彰浩 (愛知学院大学) 大坪 一夫 (履澤大学) 小山 由紀江 (長岡技術大学) 塙川 春彦 (北海学園大学) 飛渡 洋 (國立館大学)
会計監査委員	清水 裕子 (立命館大学) 竹村 雅史 (北海道札幌北高等学校)

### 新名譽会員

天野郁夫 (国立学校財務センター)  
Hossein Farhady (*Iran University of  
Science and Technology*)

~~~~~  
以下、新役員の方々から、ご挨拶をいただい  
ています。

#### 浪田克之介 (北海道情報大学)

学会の日本語名の改称がたまたま新しい世紀の幕開きと重なりましたが、わが国のテスティングを取りまく環境に変化がみられるのは重要なことだと思います。その一つは TOEFL のコンピュータ化ですが、加えて TOEIC 受験者数の増加、大学入試センター試験の利用拡大、一部大学の入試問題作成の予備校への委託、新たな日本語能力試験の実施予定などに、学会として、また個々の会員としてどう対処すべきでしょうか。みなで検討したいと思います。

#### 清川 英男 (和洋女子大学)

このたび理事に選出され大変光栄存じます。  
今まで公務のためにあまりお役に立てなかつた  
私ですが、微力ながら学会のためにより働き  
たいと思います。よろしくお願ひします。

#### 木下 正義 (福岡国際大学)

本年度 4 月から学会名賞が「外国語教育評価学会」から「日本言語テスト学会 (JLTA)」へ変更された。名は体を表すように本学会は日本の言語テストに関する専門家の集団であり、学問的・専門的な見地より言語テストについて研究・調査をした結果を全国大会や研究会を通じて、より深く掘り下げて行く学会でもある。

21 世紀は益々、国際化・情報化が進む中で一昨年度の JLTA 主催の LTRC 筑波大会では世界の言語テストに関する専門家の会議が開催され大成功をおさめた。JLTA は東アジアの中心的存在として今後は隣国韓国・台湾・中国等の諸国と言語テストに関する情報の収集・交換に努力して欲しいし、近い将来に東アジア言語テスト研究大会の開催を望みたい。大学入試センター試験問題も他の隣国の問題と比較してみて、より信頼度・妥当性がありかつ経済的な問題作成に、JLTA メンバーが多数参加して貢献する日を期待したい。

## 飛渡 洋 (國士館大學)

JLTA の日本語名がこの 4 月から変更されました。これを機に本学会の活動がますます幅広く、内容豊かになり、言わば、“put new wine in new bottles”となることと思います。

東大大学院が入試の英語問題を独自問題ではなく、TOEFLとTOEICに変更する専攻が出てくる、という旨の新聞報道が最近ありました。複数回受験できるからというのが理由とされていますが、果たしてそれだけなのでしょうか。

以前、入試問題作成を外部機関(予備校)に依頼する大学が出てくる可能性がある、という報道もありました。事情は違うにせよ、このような傾向は今後も高まるのかもしれません。妥当性の高い問題を独自に作成することが困難になってきているということではないでしょうか。このような状況の中で、本学会の果たす役割は大変重要だと思います。

法月 健（静岡産業大学）

先日自宅の引越しの時、古いルーズリーフバイインダーの中から一通の手紙を見つけた。今から十数年前、修士論文で苦悶していた私は大友先生からご紹介をいただいて Grant Henning 博士に Rasch model に関して質問を書いた。Henning 博士は一介の学生の質問一つ一つに懇切丁寧に答えて下さっていた。長い年月を経て再び触れる心温まる内容に、新鮮な感動を覚えた。

大友先生を初めとして、私はこれまで数多くの言語テスト、テスト学の先生方からさまざま恩恵を授かった。私が言語テスト学にひかれたのは、Henning 博士の手紙にあふれるような、先生方の人間的な温かさにあったのだと、いま改めて思う。

## 新世紀を迎えて言語テストへの注目が益々高

まる中、JLTA の日本語名が「日本言語テスト学会」に。短くも輝かしい歴史を誇る JLTA にあやかれるよう、新生 JLTA での活動を通じて、お世話になった先生方にご恩返しをしたい。

伊藤彰浩（愛知学院大学）

この度、日本言語テスト学会の研究会委員を仰せつかりました伊藤彰浩と申します。

現在の言語テスト研究は、第2言語習得研究等の分野との相互作用を通してこれまで以上に重要な研究分野であるとの認識を高めつつあると思います。これは研究にテストを利用しようと考えるすべてのひとにとって好ましい状況だと考えられます。このような社会的現状を忘れることなく、研究会を運営していけたらと考えております。どうか皆様の御指導、御協力をお願い申し上げます。

清水裕子（立命館大学）

評価活動や測定については、教育に関わる以上は逃れることはできません。しかし、誰もが悩みを持ちながらも、何らかの評価や決定を学習者に与えて来ているわけですが、（自らの反省も含めて）その場しのぎのテストと評価が氾濫している危険性があるようになります。その危険をなくすためにも、また誰もが評価測定で抱える問題を分かち合い、解決策を講じるために、理論面と実践面をつなぐ役目を本学会に求めたく思います。

1996年12月の本学会の設立以来、Language  
testers のしっかりした輪が、本学会を基に築  
かれつつあるのを感じております。少なからぬ  
興味を言語テストに抱いてきた一人として、今  
回、学会組織の中で、会計監査委員としての仕  
事に携わることを光栄に思っております。どう  
かよろしくお願ひいたします。

## 第13回 JLTA 研究例会のご案内

日 時：2001年6月23日（土）13:50～17:20  
場 所：熊本大学 教育学部345教室  
(熊本市黒髪2-40-1)  
参加費：会員・学生 無料・一般 1,000円  
日 程：  
13:30～ 受付  
13:50～14:00 開会式  
総合司会 Randy Thrasher  
(JLTA副会長・国際基督教大学)  
会場挨拶 大迫 靖雄  
(熊本大学教育学部長)  
会長挨拶 大友 賢二  
(常磐大学・筑波大学名誉教授)  
14:00～15:20 ワークショップ  
紹介 大友 賢二 (JLTA会長)  
「テストデータ分析ワークショップ  
—古典的テスト理論と項目応答理論—」  
中村 洋一 (JLTA事務局長・常磐大学)  
15:20～15:30 休憩  
15:30～17:10 研究発表  
発表 I (15:30～16:00)  
「教室でのクローズ・テストの利用について」  
高梨 芳郎 (福岡教育大学)  
発表 II (16:05～16:35)  
「定期テストの質の向上に向けての一提案」  
吉川 勝正 (熊本学園大学)  
発表 III (16:40～17:10)  
「日本と台湾における大学英語入試問題の  
readabilityに関する比較分析 — 2001年度  
大学入試センター試験と八十九年度大学総合  
招生考試の英語読解問題を中心に—」  
木下 正義 (福岡国際大学)  
大津 敦史 (福岡大学)  
17:10～17:20 閉会式  
研究会総括 Randy Thrasher (JLTA副会長)  
閉会の挨拶 木下 正義 (JLTA理事)  
懇親会 17:30～19:30 (くすの木会館)

\* 会場近辺の詳しい情報を、JLTAのWeb Page  
からリンクして提示しております。

## JLTA 言語テスト特別講演会のご案内

日 時：2001年7月1日(日)受付:12:30～  
13:00～14:30  
場 所：東京経済大学6号館  
(国分寺市南町1-7-34)  
題 目：English for Specific Purposes  
(ESP) Testing: State of the Art  
講演者：Dan Douglas 博士 (アイオア大学)  
\* 事前申し込み不要。  
\* 参加費:会員 無料・一般 1,000円

講演者の Dan Douglas 博士は言語テストの専門家で、最も最近の著書に Assessing Languages for Specific Purposes (CUP 2000) があります。語学教育者の方はもとより広く言語テストに興味をお持ちの方もお誘い合わせの上、どうぞ奮ってご参加下さい。

問い合わせは、事務局、または、中村優治 (東京経済大学、nkyj@tku.ac.jp) まで。

### Call for Participation The JLTA Language Testing Special Lecture

Theme: English for Specific Purposes(ESP)  
Testing: State of the Art  
Speaker: Dr. Dan Douglas  
(Iowa State University)  
Date: July 1 (Sunday) 2001, 13:00～14:30  
(Registration 12:30～)  
Place: Tokyo Keizai University,  
Building # 6  
\* No pre-registration needed.  
\* Fee: Member - Free, Non-member - ¥1,000

Dr. Dan Douglas is a language testing specialist and his most recent publication is Assessing Languages for Specific Purposes (CUP: 2000). We welcome all those who are interested in language testing.

N. B. For further information contact the JLTA Secretary General, or Yuji Nakamura (Tokyo Keizai University, nkyj@tku.ac.jp).

財団法人日本英語検定協会  
IMPS-2001 Satellite Symposium のご案内

月 日：2001年7月12日（木）  
時 間：受付 午後12時30分より  
講演 午後1時～4時  
場 所：ホテル「ヒルトン東京」4階 菊苑  
テーマ：The Development of Assessment  
Technologies in Computer Testing  
主 催：財団法人日本英語検定協会  
共 催：IMPS (International Meeting of the  
Psychometric Society)  
司 会：村木英治先生 (ACT, USA)

発表者及び発表題目：

1. The Development of Item Response Theories over the past fifty years – An Overview and Retrospect of IRT  
邦題：項目応答理論の50年  
Prof. Fumiko Samejima of the University of Tennessee, USA
2. The Application of Item Response Theories - From a Dichotomous to Polytomous Model and the Application to Psychological Measurement  
Prof. David Thissen of the University of North Carolina, USA
3. Psychometric Solutions to Practical Problem in Computerized Adaptive Testing  
Prof. Wim J. van der Linden of the University of Twente, Holland
4. Portal Project on CBT and the Future of Testing  
Prof. Robert J. Mislevy of the University of Maryland, USA

お問い合わせ：日本英語検定協会 研究開発室

Tel: 03-3266-6493, Fax: 03-3266-6579

\*事前登録が必要です。ご氏名、ご所属、連絡先（メールアドレスがありましたら、それもお知らせ下さい）をご記入の上、上記ファクスにて、お申し込み下さい。なお、定員となり次第受付を締め切らせていただきますので、あらかじめ、ご承知置き下さい。

学 会 短 信

1. 会費の納入について

2001年の会費の納入を6月15日までにお願いいたします。郵便振込みをご利用の方は、今回 Newsletter No. 6 に同封した用紙にて払い込み下さい。学会名称が変更されておりますので、過去の振込み用紙は使用できませんので、お気をつけ下さい。

なお、銀行口座からの引き落としをご利用の方は6月1日に引き落としの予定ですので、ご確認下さい。銀行の合併・吸収等により、銀行名あるいは口座番号等の変更がある場合には、大至急、事務局までお知らせ下さい。また、変更手続きが間に合わなかった場合、単年度に限り、郵便振替による納入をお願いすることがありますが、悪しからず、ご承知置き下さい。

2. 住所・所属・銀行等の訂正・変更

名簿の訂正、あるいは住所・所属・メールアドレスなどの変更が必要となった会員は、正しい、あるいは新しい住所・所属を、事務局までご連絡下さい。

3. その他

JLTAの活動に対するご意見やご要望、Newsletter等への掲載希望記事などがありましたら事務局までお申し付け下さい。

より充実した活動ができるよう、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。



日本言語テスト学会事務局

〒389-0813 長野県埴科郡戸倉町芝原 758

TEL 026-275-1964 FAX 026-275-1970

e-mail: youichi@avis.ne.jp

URL: <http://www.avis.ne.jp/~youichi/JLTA.html>